



川崎市議会議員

本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 33 (令和2年7月号)

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17

TEL044-742-8072

FAX044-211-1081

ごあいさつ



緊急事態宣言が5月25日に全面解除となり、先月19日には県境をまたぐ移動の自粛についても全面解除となりました。川崎市内では、緊急事態宣言解除後も新型コロナウイルスに対し前線に立って対応をして頂いている医療・福祉をはじめとする方々のご尽力と気を緩めずに感染予防に努めて頂いている市民の皆様により、新たな感染者の数は比較的低い数値で推移しております。改めて感謝を申し上げます。

一方、東京都では再び感染者数が増加傾向にあり、多摩川を隔てて隣に位置する本市として、警戒心を持って市内の対応を続けなくてはならないと感じています。引き続き、市民の生命・健康と生活を守るべく全力を挙げて参りますので、今後も感染拡大防止に向けてご協力をお願い致します。

市内中学校の部活動の代替大会を検討中！

令和2年第4回定例会が先月26日に閉会致しました。私は、2月初旬より新型コロナウイルス対策について、行政に対して提言・要望を行っており、今定例会でも自民党川崎市議団を代表して質疑を行うなど積極的に取り組んでいます。また、定例会終盤に行われた一般質問では、25日に新型コロナウイルス感染症への対策、影響などに関する質問を4項目に渡って行って参りましたので、それらの中から新型コロナウイルスの影響を受けた部活動の大会等について報告致します。

高校野球やインターハイ等の高校スポーツの代替大会の検討については連日のように報道やネット上で取り上げられていますが、中学生の大会、

吹奏楽や合唱等の文化部のコンクールなどについては情報が少ないのが現状です。4月下旬に中学スポーツのメインとも言える全国中学校体育大会（全中）の中止が決まり、5月には吹奏楽や合唱の全国大会・コンクールについても中止が伝えられました。勉学と同様に部活動にも全力を注ぎ、厳しい練習・稽古に励んできた生徒たちにとって、その成果を発揮する場、仲間との思い出を作り、共有する場がなくなることは大きな喪失感を抱え、特に最高学年の生徒の意欲維持が心配されます。そこで、教育委員会に対して川崎市独自の大会等の開催の検討について質問を行いました。

教育次長は、「生徒の健康や安全を第一に考えた上で、生徒がこれまでの活動の成果を発揮する大会や発表会等の開催の可否について検討を進めている」と答弁致しました。これは、新型コロナウイルスの感染状況次第という難しい条件こそあれど、運動部・文化部ともに集大成の場を確保したいという意向が正式に表明されたものです。

また、本市では、運動部については毎秋、川崎市総合体育大会を開催していますが、私は、全中が中止になったことを踏まえ、同大会を例年以上に思い出に残る大会にし、文化部の代替大会についても付加価値の高い大会の企画・運営が必要と考えております。これに対し、市長は「生徒の思い出づくりに繋がるような対応を考えたい」とのことでした。

代替大会を開催できるかをこれから検討するのではなく、厳しいハードルはあるけれども、運動部・文化部ともに開催に向けて既に検討を行っているということがわかりました。部活動に励む生徒の皆さんは前を向いて、健康、怪我に気をつけて、限られた中ですが練習、稽古を頑張りたいと思います。

私たちも引き続き、感染予防策を充実させ、生徒たちのこれまでの練習や稽古の成果を存分に発揮できる場を確保するべく取り組んで参ります。



↑新型コロナウイルス感染症予防のため議員・答弁者ともにマスクを着用し、隣席を空ける対応が取られた。